２．事業の概要と成果

（１） プロジェクト目標の達成度

（今期事業達成目標）

【目標】エチオピア南部に位置するボンケ地区３郡（①クタ②ケチャ・センガ③ガルバンザ・ガロ）において、安全な水へのアクセスの確保と保健衛生環境が改善される。

【達成度】３郡において事業対象者 11,580 人の全ての人に安全な水へのアクセスが確保され、また保健衛生環境が改善されたため、目標は達成された。

【成果】安全な水への確保について、３郡全てにおいて予定されていた水供給設備が設置され、住民によって運営され、対象住民全員が安全な水へアクセスが確保された。また保健衛生環境については、当団体が実施した保健衛生指導したことのいずれか１つ以上取り入れた住民の行動変容（家庭トイレの設置、食器乾燥棚の設置、部屋の掃除、手洗いなど）が見られた。

【今期事業目標】ガルバンザ・ガロ郡にて、安全な水へのアクセスの確保と保健衛生環境が改善される。

【達成度】ガルバンザ・ガロ郡にて、安全な水へのアクセスが確保され保健衛生環境が改善されたため、目標は達成された。

（２）事業内容

本事業は2017年から事業期間3年間で、ボンケ地区クタ郡、ケチャ・センガ郡、ガルバンザ・ガロ郡において、a)水供給システムの運営管理及び保健衛生教育の人材育成・体制構築、b)水供給システムの設置、c)保健衛生教育と学校トイレ設置を実施し、住民11,580人に対する安全な水へのアクセスの確保と保健衛生環境の改善を目指すものである。

本報告書は事業3年目で、ガルバンザ・ガロ郡での保健衛生教育(継続)と学校トイレ・水供給システムの設置を行った。また事業2年目で主な活動を終えたクタ郡、ケチャ・センガ郡においては4月にフォローアップ研修を行った。予定では宿泊を伴った研修を予定していたが、COVID-19の感染予防の観点から宿泊せず研修日数を増やし研修を行った。予定していた各郡の主要委員会メンバーを集めた全体評価会議については、COVID-19の影響により郡を超えた大人数の集会が禁止されているため実施することができなかった。しかしながら、8月にガルバンザ･ガロ郡にて再フォローアップ研修を実施、4月に実施されたケチャ･センガ郡とクタ郡フォローアップ研修で議論された内容を共有し住民全体評価会議の代わりとした。

2020年COVID-19感染拡大に伴い、駐在員2名が4月1日に日本に帰国しその後は遠隔でエチオピアにいる現地スタッフに指示をしながら事業を進めた。ワクチン接種や現地医療状況を鑑み、駐在員の現地再派遣を中止し、日本から事業終了時まで遠隔にて事業を統括した。

現地では、屋外にてソーシャルディスタンスを保ち、布で顔を覆うなどをしながら研修を予定通り実施した。しかしながら天候に恵まれず長雨により道路が冠水、また、地滑りも発生し資材運搬に大幅な時間を要したため、２ヶ月事業を延長して建設を行った。建設が遅延したことにより、事業期間中に源泉保護ボックス周囲に植林を行うことができなかったため､自己資金にて対応する予定である。

		第１年次	第2年次	*第3年次*
クタ郡	ソフト	体制構築・人事育成・保健衛生教育①	保健衛生教育② 体制構築フォロー	*フォローアップ研修* *全体評価会議*
	ハード	水供給システム設置 学校･診療所トイレ設置 モデルトイレ設置		

ケチャ･セン ガ郡	ソフト	体制構築・人事育 成・保健衛生教育①	保健衛生教育② 体制構築フォロー	*フォローアップ研修* *全体評価会議*
	ハード	モデルトイレ設置	水供給システム設置 学校＿診療所トイレ 設置	
ガルバンザ･ ガロ郡	ソフト		体制構築・人材育 成・保健衛生教育①	*保健衛生教育②* *体制構築フォロー* *フォローアップ研修* *全体評価会議*
	ハード		モデルトイレ設置	*水供給システム設置* *学校トイレ設置*

具体的な活動は以下の通りである。

1. ガルバンザ･ガロ郡における保健衛生教育・啓発活動と組織体制構築のフォローー

ガルバンザ・ガロ郡の保健衛生教育と啓発活動は昨年から開始されていたため、各家庭の衛生知識の定着に重点をおいてコミュニティー保健委員が各家庭を訪問し指導を行った。4月以降集団での研修では、ソーシャルディスタンスを保ち、屋外で行った。またCOVID-19感染予防として手洗い用のポリタンクと石鹸を購入し、参加者は研修開始前に手洗いを行った。そのことで手洗いの重要性、意識はいつも以上に高まり家庭においても行動変容が見られた。

水供給システムの建設が実施されたことによりメンテナンスチームは、建設業者から指導と実地訓練を受けた。

2. ガルバンザ・ガロ郡におけるモニタリングの実施

コミュニティー保健委員から提出される月例報告書をホープ・スタッフが確認し、問題のある家庭などは直接保健衛生指導を行った。

3. ガルバンザ・ガロ郡におけるハード事業の実施（水供給システム及び学校トイレの建設）

ガルバンザ・ガロ郡は他の2郡より面積が広く勾配が激しいことに加え長雨の影響を受け、学校や源泉に設置するための資材運搬道路の整備に時間を要した。4月に地滑りが発生し死傷者が出た際には、ホープ・ネットワークで住民に対する食料などの支援も行った。

長雨の影響により、建設スケジュールが予定より3ヶ月ほど遅れていたが、天候が回復してからは建設作業を急ピッチで進め、２ヶ月事業の延長をし、全ての建設物の設置を完了させた。

4. クタ郡及びケチャ・センガ郡におけるフォローアップ研修の実施

4月1～4日、4月6～12日の11日間にフォローアップ研修を実施し、合計583名が参加した。研修では、水・保健衛生委員会の役割と責任の確認、メンテナンスチームの役割、コミュニティ全体における衛生認識、プロジェクトの持続性、水利用料金の徴収の重要性、食事前の手洗いへの理解、またCOVID-19の予防と感染経路に関する正しい理解を促進した。

住民からは、水供給システムが故障した際に購入する資材や備品について懸念意見があった。資材や備品は近隣都市アルバミンチで購入できるものの、アルバミンチまでの交通費を捻出できないことを苦慮していた。当団体は、郡役所が資材販売先を教示でき、また毎月の水利用料金の徴収を丁寧行

	うことを助言した。 上記以外に衛生に関わる大きな懸念は挙げられなかったが、COVID-19の予防や対策について多くの時間を費やし話し合いを行った。 5. ガルバンザ・ガロ郡における事業評価会の実施 1月末から8日間にわたり、事業評価会が地方政府により実施された。住民全体評価会議が実施できないため、クタ郡とケチャ・センガ郡のフォローアップ研修で話し合われた内容をガルバンザ・ガロ郡の各委員会と郡役所に共有することとした。評価会は南部諸民族州政府、ガモ地方政府、ゲレッセ地区役所から各3名、住民26名、ホープ･スタッフ3名が参加し実施された。関係者から地形的な水供給設備設置の難しい地域において、全ての活動を効果的且つ高い質で完了してくれたと高い評価をもらった。水供給システムの引き渡しに関する書類に捺印がなされ、事業が住民組織と郡政府へ引き継がれた。 6. 成果確認のための調査・分析 本部事業担当者と駐在員2名がアンケート及び聞き取り調査のフォーマットを作成し、日本から現地スタッフに指示し、アンケート調査の集計と分析を行った。 7. COVID-19コロナ感染予防対策（事業変更承認活動） 現地スタッフ17名およびガルバンザ・ガロ郡で保健衛生啓発活動のための戸別訪問や水供給施設建設のための資材運搬において人との接触の多いコミュニティー保健委員(10名)、メンテナンスチーム(15名)と建設関係者(58名)に事業終了までの布マスク(1枚/1ヶ月/1人)および消毒液(1000ml/1ヶ月/１人)または薬用石鹸(1個/1ヶ月/1人)を配布した。 研修時には参加する住民の検温を実施、また手洗いの実施指導ができるよう、ポリンタンクにて水と石鹸（1石鹸/50名）を提供した。 ３郡（クタ・ケチャセンガ・ガルバンザガロ）の各家庭と学校、診療所に手洗い等を啓発する COVID-19予防ポスターを配布、また学校および診療所での登校・来所時での検温を実施し、COVID-19感染予防を含めた保健衛生啓発の強化を進めた。
（３）達成された成果	保健衛生教育と啓発活動 【成果】適切な保健衛生知識を得た給水所班などが各家庭に啓発活動を行い、コミュニティー委員が定期的に家庭訪問を実施することで、対象住民において保健衛生に対する意識が改善された。 【指標①】活動2年目のガルバンザ・ガロ郡4,944人（989世帯）の85%以上の住民が保健衛生教育で得た知識を家庭で実践する。 家庭訪問と聞き取り調査により事業対象の世帯において住民が保健衛生で得たいずれかの知識を家庭で取り入れ実践した。活動１年目（事業第２年次）において家庭における衛生的な活動（家の掃除、食器乾燥棚の設置、排水の扱い方、家庭用トイレの設置、家畜と居住スペースを別にする、手洗い）の実践があまりみられなかったため、ホープスタッフが家庭訪問と指導方法に対するアドバイスをコミュニティー保健委員に行った。さらに、衛生的な活動の実践の見られない家庭についてはホープスタッフがコミュニティー保健委員とともに各家庭を訪問し、家庭の事情に合わせて細かく指導を行い、実践と定着を促進した。特に、食器乾燥棚の設置と家庭用トイレの設置に関してはアンケート調査を行った98世帯のうち全世帯が設置をして利用していた。食器乾燥棚と家庭用簡

易トイレも雨風の影響で壊れやすいため､作り直しも行っており定着が感じられた。また、事業開始前の調査では、「トイレ設置の有無が健康に関係していない」と回答していた住民が7割もいたが､衛生教育によって意識の変化によりトイレと自分の健康との関係をよく理解し設置が促進されたと考える。事業1・2年次の事業地であるクタ郡及びケチャ・センガ郡よりも衛生活動の定着が見られた要因として、コミュニティー保健委員の人数を活動2年目に半数にせず維持した効果であろう、と団体内で振り返った。クタ郡及びケチャ・センガ郡では、活動1年目の時の雇用した10名を活動2年目で5名に啓発活動を行っていた。

また、外部要因として新型コロナの感染拡大により予防としての手洗いが注目されたことで、手洗いに対する意識が高まり定着するなど行動変容が見られた。感染拡大が事業地近郊都市でも見られたことから、コミュニティー保健委員へマスクや石鹸を提供、また研修に参加する住民の検温と手洗いを実施、さらにCOVID-19感染予防ポスターを各家庭に配布したことが、住民の行動変容を促進したと考えている。

【指標②】ガルバンザ・ガロ郡において衛生教育により学校全児童(687名)の85%がトイレを適切に利用する。学校周辺で野外排泄がみられない。

長雨の影響で予定よりガロ小学校とダハ小学校の２校とも学校トイレの設置が大幅に遅延したが、設置後ホープスタッフが児童たちの学校トイレの利用を目視確認した。また、学校周辺で野外排泄されていないことも目視確認した。２校のWaSHクラブ担当教師への聞き取り調査を行ったところ、安全性、快適さ、プライバシーの確保、清潔さにおいて、既存のトイレよりも高い評価を得た。建設の遅延により利用開始後のモニタリング期間が短くなってしまったが、家庭での簡易型トイレの普及と定着がすでに見られているため、学校トイレの利用がなされないことはほぼないと考えている。健康とトイレの関係に関する意識の変化による家庭での簡易トイレの設置と利用、学校トイレの利用が野外排泄を根絶させ、そしてコミュニティー全体の衛生環境改善が図られている。

水供給システムの設置

【成果】ガルバンザ・ガロ郡において安全な水を最小限の時間・身体的な負担で入手できる

【指標】対象住民4,944人（989世帯）が安全な水へのアクセスができ、そのうち90%以上が毎日約25ℓの水を使用でき、往復15分以内で水汲みができるという指標に対し、給水所班へ聞き取りを行った結果、事業前水汲み片道平均33分程度を要していたが、水供給システム設置後平均5分で水汲みが行えるようになった。水の供給は1日平均約32ℓほど使用、事業前に比べ6ℓ水の利用が増加し、目標値よりも良い成果を得られた。

	水源ボックス	貯水タンク	給水所	洗濯場	パイプライン(km)	学校・診療所トイレ(棟)	学童数	年次
クタ	3	3	18	17	8.8	3	815	1年次
ケチャ･センガ	3	3	12	11	3.8	4	2,200	2年次
ガルバンザ･ガロ	3	3	25	23	11.3	4	687	3年次
計	9	9	55	51	23.9	11	3,702	

学校トイレの設置

【成果】ケチャ・センガ郡においてトイレが建設され、適切に維持管理され

	る。 【指標】ケチャ・センガ郡の小学校2校(ガロ小学校及びダハ小学校)においてトイレが2棟ずつ（男女各1棟）建設された。 ホープスタッフがガロ小学校及びダハ小学校においてトイレが2棟（男女各1棟）ずつ建設された。設置後ガロ小学校の生徒会の生徒3名及びダハ小学校の校長と生徒会の生徒2名に聞き取り調査を行った。ガロ小学校とダハ小学校とともに、学校内にWaSHクラブが構成され、WaSHクラブがトイレの清掃を最低週1回行っており、維持管理がなされていることを現地ホープスタッフが目視確認した。また生徒への啓発活動は、朝礼の他に月2回ほど授業で行っている。トイレの鍵の管理については、ガロ小学校は学校の警備員、ダハ小学校では担当教師が行っている。
	クタ郡とケチャ・センガ郡でのフォローアップ研修と合同評価会議の実施 【成果①】事業終了後コミュニティー内での維持管理がより強固になされるよう、前年に事業終了したクタ郡とケチャ･センガ郡において水供給システムの維持管理の問題点を話し合い解決に向けたコミュニティーによるフォローがなされる。 【成果②】実施中に抱いた保健衛生保健衛生に関する課題などを話し合うことで知識が深まりさらなる各家庭における実践がなされる。 【指標】参加者数の50%以上がフォローアップ研修及び全体評価会議で活発に意見を述べる。 クタ郡では198名、ケチャ･センガ郡は385名が各フォローアップ研修に参加した。研修ではグループディスカッションも実施され、8割以上が発言し活発な議論がなされた。主に、家庭で実践している衛生的な活動や行動､給水所の管理の仕方、コミュニティー全体における公衆衛生の意識など議論が活発になされた。また、水供給システムが故障した際に購入する資材や備品について懸念意見があった。資材や備品は近隣都市アルバミンチで購入できるものの、アルバミンチまでの交通費を捻出できないことを苦慮していた。当団体は、郡役所が資材販売先を教示でき、また毎月の水利用料金の徴収を丁寧行うことを助言した。3郡全体評価会議はCOVID-19蔓延防止措置で実施できなかったが、ガルバンザ・ガロ郡にて他２郡で話し合われた内容を共有することでその代わりとした。
	SDGs目標6「全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」に合致した事業を実施した。事業では11,580人に安全な水を供給そして住民たちは持続可能な管理を確保でき大きく貢献することができた。 ターゲット6.1「2030年までに全ての人々の安全で安価な飲料水の普遍的なかつ　なアクセスを達成する」においては、各郡の住民全体会議で決定された安価な金額（2ブル）で水を得ることができる。 ターゲット6.3「2030年までに全ての人々の適切かつ平等な下水施設、衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。女性及び女児ならびに脆弱な立場にある人々のニーズに特に注意を払う」に対しては、家庭トイレの設置促進を家庭訪問による啓発活動により高い設置率となった。家庭トイレは簡易な身近にある材料で設置が可能なため、各家庭の経済状況に左右されず全世帯に設置を促進することができた。学校トイレにおいては、男子用（8個室）と女子用（8個室）を設置し、女子にも配慮がなされた。家庭用トイレの設置も促進され、行動変容も見られることから野外排泄が根絶されつつある。 ターゲット6.b.「水と衛生の管理向上における地域コミュニティーの参加・

	強化」については、住民による水供給システムのために水・衛生保健委員会、メンテナンスチーム、給水所班が組織化され、研修の実施により強化された。
（４）持続発展性	（ア）　住民の事業に対する「オーナーシップ」形成と促進 事業対象のコミュニティーによる資材運搬用道路の整備、水供給システム設置工事資材の運搬、パイプ設置など様々な活動に住民が参加したことでオーナーシップが形成され、高めることができた。しかしながら、本事業地ガルバンザ・ガロ郡では長雨の影響で整備した道路が冠水し、再度資材を運搬する道路整備を依頼することとなり、住民から不満を聞くこともあった。雨季の時期が終わっても長雨が続き、車での搬入が難しいところは住民の手で資材を建設現場に運搬する事になったため負担が多くなったことが原因である。住民が苦労して水供給システムを手にすることとなったため、結果として本事業終了後（引き渡し後）も住民に水供給システム管理に対する責任や意識は高いと予測される。 （イ）　住民による運営組織の形成 本事業で形成された運営組織、水・保健衛生委員会、メンテナンスチーム、給水班が住民全体会議で主に住民の立候補と推薦によってスムーズに形成された。事業の要となる「水・保健衛生委員会」はボランティアで運営するが、村の名誉となることから立候補によって決定されることが多く見られた。事業終了後も、水・保健衛生委員会がコミュニティーの公衆衛生の促進、水供給システムの運営と管理を担い、各世帯が利用する給水所の管理は、給水所班が掃除と管理を担う。学校トイレと診療所トイレについては、教師と診療所スタッフが鍵を保管し、掃除と管理を行う。 （ウ）　よく計画されたトレーニングによる人材育成 本事業で形成された住民組織に対して予定通り研修を実施し、事業終了後も水供給システムが管理や衛生環境が継続して改善されるよう人材が育成された。また、メンテナンスチームは設置工事に参加し、実地訓練を受け簡単な修理ができるよう育成された。本事業で住民から雇用されたコミュニティー保健委員や給水班は、保健衛生に関する研修を受講し知識を身につけることができた。各家庭において実践定着がみられており、コミュニティー全体で保健衛生の改善が今後も見られることが期待される。 （エ）　現地行政との既存の協力体制、連携関係を利用 これまでの当団体の活動実績から構築されていた、中央及び地方行政機関との協力を得て事業を実施完了することができ、また、事業終了後もコミュニティーは地方行政との関係を引き継ぐことができた。水エネルギー省では「Water Sanitation for All Always」を推進しており、地方の水供給に対して責任があるため、本事業地における衛生教育に関して協力を要請し、事業対象地で実施された住民全体会議や各研修に地方行政の役人が参加した。また、水供給システムの維持管理に関して水質検査は、行政が定期的に水質調査を行うことを約束している。またフォローアップ研修では、住民が破損した部品の購入先について不安を抱えている点をあげていたが、地方行政の担当者からは購入先の紹介もできることを話しており、事業終了後も、水・保健衛生委員会を通じて本事業によって築いた関係を利用し地方行政へ連絡や相談ができるような体制が構築され、必要に応じ地方行政を通じて中央政府へ声が届くよう協力をお願いしている。 （オ）　本事業終了後の3～4年後も住民たちによって水供給システムの維持管理がなされている

	本事業終了時に事業の目標である「安全な水へのアクセスの確保と保健衛生環境が改善される」が達成された。今後も水供給システムを維持できる人材が育成されており、また住民組織によって運営管理なされるよう体制が構築された。今後は計画通り維持管理するために引き続き水利用料の徴収が住民からなされ、メンテナンスや修理が行えるようなシステムが構築されている。